

広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会 第3回運営委員会 会議録

日 時 平成28年2月18日(木) 15時30分～17時30分

場 所 合人社ウエンディひと・まちプラザ(まちづくり市民交流プラザ)南棟4階協議室

出席者 (委員) 波多野委員長、阿部委員、柿本委員、東委員、弘中委員
(プラザ) 津田館長、樋口主任

議事及び会議要旨

議事1 平成27年度事業の進捗状況について

事務局から、平成27年度事業の進捗状況について報告を行った。

議事2 平成28年度事業計画案について

事務局から、平成28年度事業計画案について説明し、意見交換を行った。

- ・入館者数等の数値目標は年々上がっているが、右肩上がりの数値は無理があると感じる。
- ・人口減少社会という現実があり、社会環境等を考慮する必要がある。数字だけで評価しない考え方を導入するべき。評価基準を変えていかななくてはならない。
- 指定管理業務のため、市から数値目標の設定を求められる。28年度の数値については、現在、市と協議中である。
- ・講座によっては参加者数が評価指標の一つとなるが、人数で評価するべきではないものもある。
- ・社会への貢献度で評価することが考えられる。講座を受講するだけでなく、学習したことを生かして人の役に立ってこそ意味がある。
- ・受講生の組織化につなげるなど、講座をやりっぱなしにしないことが大切である。
- ・受講生の追跡調査を行い、学習後の活動について調査することは必要である。
- 過去に受講生の追跡調査を実施したことがある。講座で学んだことを生かして活動している人が相当数いた。
- ・サンプリングでいくつかの講座受講生を対照に追跡調査をすれば十分なので、ぜひ実施を。
- ・プラザ館長名の修了証書の発行を考えてもらいたい。プラザが発行した修了証書を持って活動すれば信用があり、活動の後押しとなる。

議事3. まちづくり市民交流フェスタ開催結果について

事務局から、平成27年度まちづくり市民交流フェスタの参加団体アンケート結果等について報告し、意見交換を行った。

- ・参加団体が収益を上げることがフェスタの目的ではない。収益目的の団体の参加を抑制するためフェスタで得た収益の50%を実行委員会に納めることにしたが、目的自体は達成された。
- ・4階ギャラリーの来場者が少なかったとの声が多かった。
- ・館内に飲食コーナーがあれば、もう少し人の出入りがあったのではないかと。
- ・渡り廊下に出展があればよかった。
- ・修道大学のボランティアグループが初めて出展した。子どもの体験コーナーはよかったが、土砂

災害に関する支援活動の報告は展示物が少なく残念だった。

(来場者を増やすための工夫)

- ・ 2日間の開催を1日にすることを検討してみてもどうか。
- ・ 4階ギャラリーにステージを設ければ、人が上がってくるのではないかと。4階ギャラリーをメイン会場にしてもよい。
- ・ 屋外バザーで飲食をして館内には入らず帰ってしまう人がいる。館内の催し物の様子がわかるように、屋外や1階にモニターを設置するとよいのではないかと。

(スタンプラリーについて)

- ・ 来場者に館内を巡ってもらうためにスタンプラリーを実施したが、会場を巡る人は少なかった。○スタンプを押してもらうためにはクイズを解かなくてはならなかったため、スタンプラリーへの参加が少なかったように思う。
- ・ クイズを解くスタンプラリーではなく、スタンプが溜まったら抽選会にしてフェスタの催し物を景品（映画鑑賞券、体験コーナー参加券等）にすれば、各会場を巡ってもらえるのではないかと。

(その他)

- ・ 屋外でのバザーがフェスタのメインイベントに見えてしまう。バザーによる集客を期待しているのだと思うが、バザーがなくても来場者数はあまり変わらないように思う。フェスタのコンセプトをよく考える必要がある。
- ・ フェスタは人材バンクが中心となった祭りにしてもよいのではないかと。
- ・ 参加団体アンケートは、集計結果と対応案を整理し、事務局から全参加団体へフィードバックする。

閉会